授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2612 号

An analysis of patients with a chief complaint of difficulty moving

体動困難が主訴で救急搬送された患者の分析

村松 賢一（むらまつ けんいち）

博士（医学）

論文内容の要旨

体動困難を主訴に救急外来に来院した患者はよく遭遇するが、それらを分析した論文の報告は少ない。そこで当院に救急搬送された体動困難を主訴とする患者を対象に後方視的に分析を行い、原因疾患や頻度、転帰など臨床的特徴を明らかにした。2017 年 8 月から 2021 年 10 月にかけて当科が管理するデータベースを用いて、当院に体動困難を主訴に救急搬送された症例を用いて分析を行った。7933 人の救急搬送された患者の内、体動困難を主訴に救急搬送された症例は 111 例であった。男性が 59 名、女性が 52 名、平均年齢は 76.3 歳であった。疾患としては横紋筋融解症が最も多く、感染症、体温異常、電解質異常、血糖異常、低酸素血症、腎不全の順に認めた。また他には外傷や脳卒中、悪性腫瘍など様々な原因が認められた。予後良好群としては Hb、脱水、精神疾患、薬剤副作用が挙げられ、予後不良群としては年齢、女性、感染症、外傷、乳酸値、尿素窒素、フィブリノーゲン、BNP が挙げられた。本研究は体動困難を主訴に救急搬送された患者の臨床的特徴を述べた初めての報告である。体動困難を主訴に搬送された患者に対する明確な診断アルゴリズムはまだ確立されていないため、今回の知見では病歴聴取、バイタルサイン評価、身体診察、血液検査、培養検査、生理学的検査、CT などの放射線検査を行うことの重要性を示唆するものであった。後視的、単一医療期間の少人数のデータであるため、今後他施設との共同研究による前向きな調査・研究が必要であると考える。